

緑が丘一丁目北区町内会の事例

～不易流行～

新しさを取り入れて変化していくこと

緑が丘一丁目北区町内会の概要

- 高松公園こがねパーク高松（旧盛岡競馬場）の西隣の小高い丘
- 現在約180世帯、高齢化が進む
- 元々は畑や果樹園だったが、昭和30年代から市街化が進む
- 教員をはじめ、サラリーマンが多い地区



緑が丘一丁目

昭和時代

- 昭和30年代に市街化
 - 当時は上下水道なし、道路舗装なし
- 当時の住民が結束して、生活環境整備に取り組む

- 昭和52（1977）年に、住民主導で町内会設置
 - 住民の意見をまとめて市に伝えるため
 - 110世帯、40～50代中心
- 以後、生活環境の改善や住民同士の親睦など活発な活動
 - 総務部、環境整備部、運動安全部、厚生保健部、教育文化部、婦人部。
 - 子ども会と老人クラブは、隣の緑が丘1丁目町内会と合同

平成時代

- 平成になると、道路や下水道などの整備も進み、町内会活動は敬老会やバス旅行など親睦活動がメインになる
 - この頃に共同住宅（アパート）が増える。入居者との関わりはあまりなかったという
- 平成10年代以降、高齢化により老人クラブと町内会のメンバーが同じようになった
 - だが、さまざまな行事が賑やかに行われ、毎月の会報は充実したものだ
- その後も、役員は当初から携わっていた人たちが継続で、あまり若い人も入らず、少しずつ欠け始めた
 - 町内会行事も、老人クラブの活動と同じような人が参加するように。次の役員探しが大変になってきた
- いつのころからか、各戸配布の会報は回覧に
- 女性部は、活動目的があいまいに

平成時代後半から令和へ

- 平成20年代後半には、ずっと役員を担っていた方々が、次々と病気で倒れる
 - 役員の人パワーが減り、スキルが落ち、会長が町内会活動の縮小や事務の軽減で対応し始めた
- 令和2年夏、これまで様々な業務を担っていた会長、元総務部長が相次いで倒れる
 - 《町内会の危機は突然やってきた》
- これまで関わっていた人が集まり、会議を開いてみたものの、町内会活動の全容をわかる人がいない
 - 負担を減らすため担当する作業部分だけを頼まれていたり、役員が空席で決まっていなかったりしたため

町内会をどうすればいいのか？

- 顔見知りなのは、60代以上の人たちと子ども会程度
 - 話し合いをするには、誰に出てもらえばいいのかわからない
- 「町内会とは何をするとところなのか？」という、そもそも論から始まる
 - 回覧とは、どこから何が来て、誰がさばいて誰が配るのか？
 - 行政などから依頼される仕事とは何か？
 - 班長の役目とは？ 各部の役割は？ 何のために何をするのか？
 - 総会資料に自主防災隊というページがあり、分担が決められているが、見たことも聞いたこともない
- そもそも町内会とは必要なのか？ という疑問まででた入るのは任意なら必要ないのか？

新たな体制で再出発

1. 組織・目的の確認と執行体制の見直し

- 各部の役割、班長の役割を再確認
 - ▶ 従来やっていた行事を続けている一方、目的もわからなくなっていたものは、その都度改めて検討。年度替わりに組織も変更
- 役員はみんなで広く浅くやると決め、できる範囲で互いに手伝うこととする → 令和3年度から欠員なし
- 毎月1回、役員が執行部会議をし、会報で報告

2. 連絡体制を確認し、補強を模索

- ① 役員でグループメールを開始
- ② 会報を毎月各戸配布と回覧
- ③ 非常用 班長を通じた住民への連絡（普段は使わない）
- ④ SNSによる連絡手段も模索中

新たな体制で再出発（続）

3. 広報活動で大事にしていること

- 町内会が何をしているかわかること
- 誰がやっているのかわかること
- 中学生がわかるように平易で分かりやすいこと
- 市の事業などの記事は、簡単でも説明を入れること
- 町内会が住民が心地よく暮らせるように気を配って活動しているというメッセージを発すること

● 2020年11月会報

- 1 町内会は、もっと住民の役に立つ組織でありたい
- 2 町内会が何をしているのか、見えるように活動したい
- 3 町内会活動は、何をすべきかをはっきりさせたい
- 4 来年に向けて、改めて考えていきたいこと。いろいろ

新たな体制で再出発（続）

4. 行事

①運動会に代わりにグラウンドゴルフ大会

- 運動会は準備が大変
- 子どもから年配者まで、みんなが参加する行事が欲しい

②寺子屋講座～〇〇の時間

- コロナをきっかけに、行事は必ずしも大勢集めなくても良いと考えた
- 自分たち（役員）が自ら楽しみながら、活動の場を作り、参加してみる試してみる複数の機会を提供する、と方針を決める

③敬老慶祝会

- 長寿を祝う気持ちを表すことが目的。祝賀会よりもお祝い品を贈る方が支持されるのでは？との仮説をアンケートで検証

④防災活動

- 自主防災隊は有名無実。防災講座をきっかけに何かを始めたい

ふり返りをしながら、次へ

～ 不易流行 ～

いつまでも変わらない本質的な中にも
新しさを取り入れて変化していくこと

2つの視点で検討

- ① 年間計画の中で、どのような行事の構成とするか？
- ② それぞれの行事は、従来どおりで良いのか？



- ① 次年度計画を第3四半期から検討する
- ② 終了後に、評価・反省し、見直しへ

グラウンドゴルフ大会

Style Change

目的 : 子どもから年配の方まで参加できる行事

運動会からグラウンドゴルフへ → 目的を変えずにやり方を変えた

○小学生男子とお母さんからの感想

(*^^)v 「お母さんに負けたのは悔しかったけど、楽しかったです。色々なスポーツを経験することは楽しいことなんだとわかりました。」

(*^_^*) 「普段はサッカーをやっている息子ですので、色々なスポーツに挑戦することの楽しさを味わうことができたのは素晴らしいと思います。皆さまに優しく教えていただいたおかげです。ありがとうございました。」



10月2日(日) 午前、
小中学生3人を含む
17人参加



「寺子屋講座」〇〇の時間

New Concept

目的 : 様々な体験の機会を提供する
 方法 : 多くの人を集めなくてよい

新しい考え方の新企画！
 ジャズ教室やボッチャ体験

星空観察会

5月8日 30人、9月3日 雨天中止、10月23日 曇天7人、
 11月8日は40人ほど参加し、皆既月食などを観察

「顔と名前がわかりたい。」



敬老慶祝会

Style change

目的 : 長寿を祝う 目的は変えずにやり方を変えた

①アンケートで意向調査

慶祝会より、お祝いの品が希望者多い

②希望者が増えた

慶祝会開催時よりも、昨年の希望者より、希望者が増えた

防災講座

Re Start

①地域の危険性について学ぶ

浸水や土砂災害の危険地区はない。

②停電や断水時に自宅で3日暮らすための実習

ビニール袋を利用して、電気釜を使わずにご飯を炊く実習と試食
非常食の紹介

→ 防災活動を「自助」に注力した活動から開始しよう！

コミュニケーションを増やしたい

～ 双方向のコミュニケーションをしたい ～

① 行事の中止などタイムリーにお知らせしたい

- ・ SNSなどで、お知らせ掲示板がほしい

→公式LINEを検討

② SNSでコミュニケーションの手段を増やしたい

新しい班長さんに電話してと会報で連絡したがこない。

知らない人には電話しにくいかも？

→会報で連絡先のメールアドレスを追加

③ 活動を知ってもらうことは、理解への一歩

黒石野中学校から依頼された校外学習に参加した保護者から、

「このような活動を続けていただいていること、また、地域を支えるお仕事的一端を知り、とてもありがたく感じました。ご協力できることがありましたら、お声掛けいただきたく思います。」

そして現在の目標とやるべきこと

① 暮らしやすく楽しい町内であること

- 町内の環境整備、ごみや除雪、道路の穴ぼこ等の対応や地元の中学校の校外学習への協力など、**基本的な活動は継続**
- 協力し合って運営

② 防災教育活動は大事

- 町内に災害危険区域はない ←防災講座で確認
- 大雨や地震の際、3日間自宅で過ごせるための訓練

③ 日ごろから声をかけられる緩い関係性づくり

- 清掃活動や懇親活動の中で、**地域の人々の顔を覚えお互いに話ができる関係性をつくること**